

はぎアート 回遊ウィーク

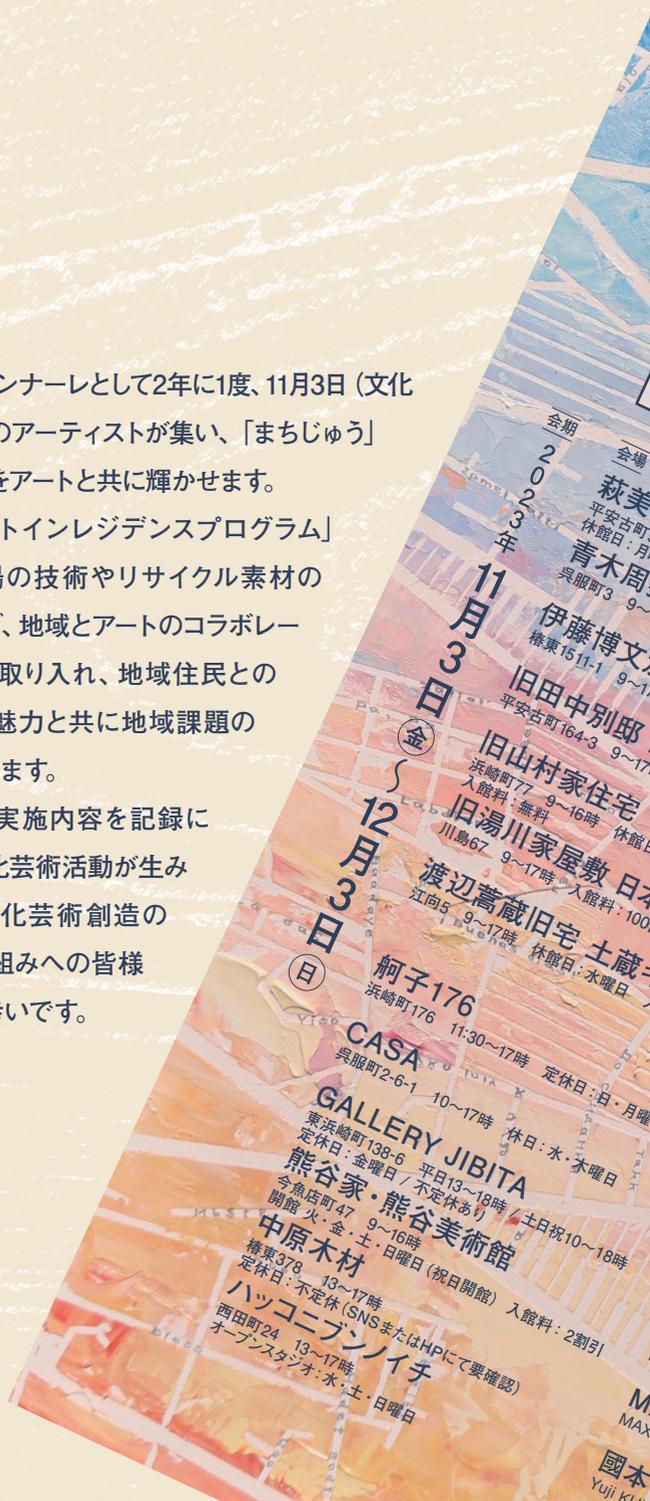
Archive book



2023

「はぎアート回遊ウィーク」は、ビエンナーレとして2年に1度、11月3日（文化の日）から数日間にわたり、国内外のアーティストが集い、「まちじゅう」多彩なアート展を実施し、萩のまちをアートと共に輝かせます。また作家の地域滞在「アーティストインレジデンスプログラム」では、空き家・店舗の活用、工場の技術やリサイクル素材の利用、また文化財施設での展示など、地域とアートのコラボレーションとして地元の資源や風土を取り入れ、地域住民との交流作り出し、アートの可能性や魅力と共に地域課題の新しいアプローチとして提示しています。

このハンドブックは、これまでの実施内容を記録に残し、今後も持続的に創造的な文化芸術活動が生み出されるような環境を目指し、文化芸術創造の発信拠点を形成する為、この取り組みへの皆様のご理解、ご協力を頂けましたら幸いです。





はぎアート 回遊ネットワーク

美術館・浦上記念館 茶室
586-1 9~17時
観覧料: 300円
旧宅 主屋床の間
17時 入館料: 100円

別邸
17時 入館料: 100円

五松閣
17時 入館料: 100円

モニター展示室
17時 水曜日

本庭園
100円

ギャラリー
入館料: 無料

沼田 愛実
Margami NUMATA

原田 とおる / 沼田 愛実
Toru HARADA / Manami NUMATA

Alessandro Nutini (レジデンス作家)
Alessandro NUTINI

七尾 うた子 / 岩崎 龍二
Utako NANAŌ / Ryuji IWASAKI

山本 浩二 / 藍染しんご
Koji YAMAMOTO / Shingo AIZOME

MAX / IMONE
/ IMONE

ゆえ

作家
館鼻 則孝
Noritaka TATEHANA

峰松 宏徳
Hironori MINEMATSU

丸山 武
Takeshi MARUYAMA

坂本兄弟
SAKAMOTO, Brothers

潘 正強
Zheng qiang PAN

豊田 剛士
Tsuyoshi TOYOYA

原田 とおる / 沼田 愛実
Toru HARADA / Manami NUMATA

Alessandro Nutini (レジデンス作家)
Alessandro NUTINI

七尾 うた子 / 岩崎 龍二
Utako NANAŌ / Ryuji IWASAKI

山本 浩二 / 藍染しんご
Koji YAMAMOTO / Shingo AIZOME

MAX / IMONE
/ IMONE

ゆえ

はぎ
アートで新しい体験を

CONTENTS

- 02 展示会場 Map
- 04 Artist Files (美術館)
- 06 Artist Files (文化財施設)
- 13 Artist Files (協賛会場)

展示会場 map

美術館

- | | | |
|---|--------------------|-----------|
| ① | 山口県立 萩美術館・浦上記念館 茶室 | 平安古町586-1 |
| ② | 熊谷家・熊谷美術館 | 今魚店町47 |

文化施設
財

- | | | |
|---|--------------------------|-----------|
| ③ | 青木周弼旧宅 主屋床の間 | 呉服町3 |
| ④ | 伊藤博文別邸 | 椿東1511-1 |
| ⑤ | 旧田中別邸 五松閣 | 平安古町164-3 |
| ⑥ | 旧山村家住宅 モニター展示室 | 浜崎町77 |
| ⑦ | 旧湯川家屋敷 日本庭園 | 川島67 |
| ⑧ | 渡辺蒿蔵旧宅 土蔵ギャラリー (景観重要建造物) | 江向5 |

協賛
会場

- | | | |
|---|----------------|-----------|
| ⑨ | 舸子176 | 浜崎町176 |
| ⑩ | 大屋窯 | 椿大屋905 |
| ⑪ | Casa | 呉服町2-6-1 |
| ⑫ | Gallery Jibita | 東浜崎町138-6 |
| ⑬ | 俣宿 天十平 | 南古萩町33-5 |
| ⑭ | 古民家ゲストハウス萩暁家 | 浜崎町237-1 |
| ⑮ | tazz | 東田町144 |
| ⑯ | 萩焼窯元 牧野窯 | 三見市710 |
| ⑰ | ハッコニブンノイチ | 西田町24 |
| ⑱ | 中原木材 | 椿東378 |
| ⑲ | 福の源 | 土原2区279-4 |

山口県立 萩美術館・浦上記念館 茶室

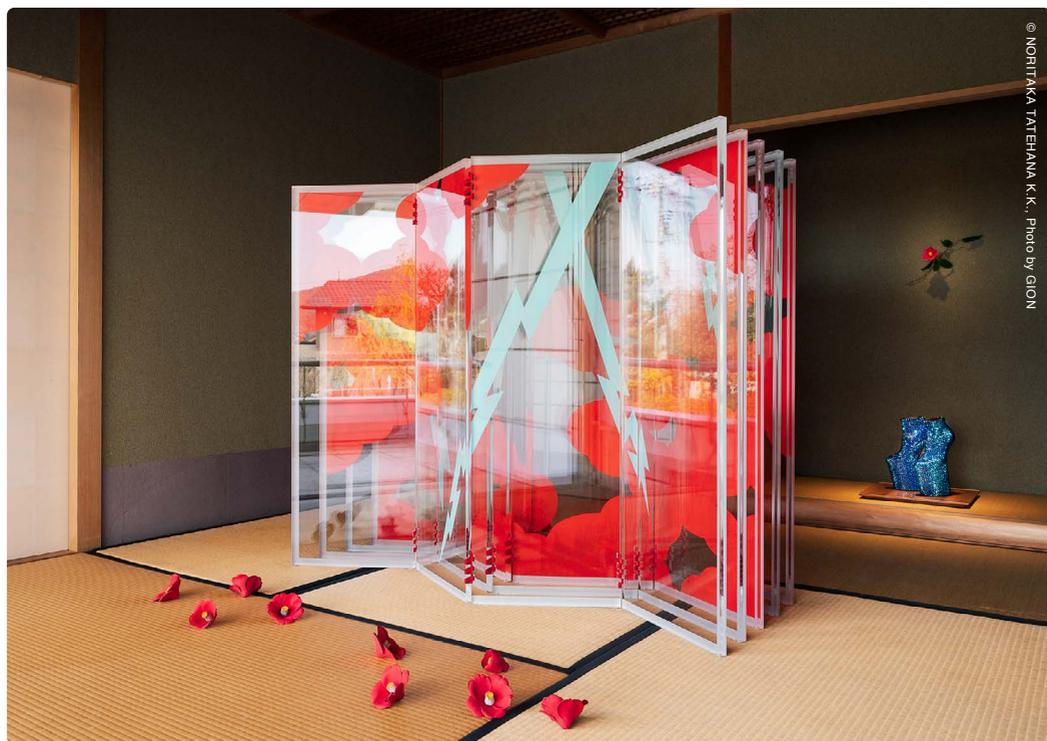
浮世絵、東洋陶磁、陶芸・工芸の3つのジャンルを専門とする美術館。萩市出身の実業家浦上敏朗氏(1926-2020)が収集した浮世絵・東洋陶磁などを山口県に寄贈したことを契機に、1996年(平成8年)に開館した。

ARTIST #01

館鼻 則孝

Noritaka TATEHANA

1985年東京生まれ。歌舞伎町で銭湯「歌舞伎湯」を営む家系に生まれ鎌倉で育つ。シュタイナー教育に基づく人形作家である母の影響で、幼少期から手でものをつくることを覚える。2010年に東京藝術大学美術学部工芸科染織専攻を卒業。遊女に関する文化研究とともに、友禅染を用いた着物や下駄の制作をする。



© NORITAKA TATEHANA K.K., Photo by GION

日本の伝統文化から着想を得て、現代的に制作された作品によって、館鼻独自のインスタレーションが展開された。

熊谷美術館

熊谷美術館は、昭和40(1965)年4月に、歴史文化資料の保存及び公開を目的として開館。萩藩御用達であった熊谷家の蔵を改造した展示室には代々の当主が継承してきた所蔵品が展示されており、4代熊谷五右衛門義比（くまやごえもんよしかず）が長崎において親交のあったシーボルトより贈られたピアノ、雪舟、雲谷派、狩野派、名士志士の書画、古萩や御家元との歴史を伝える茶道具、美術工芸品、文書類など、約3,000点に及ぶ。近年は文化財でも、展示、講演会、セミナー、コンサート等、文化活動が開催されるなど、内外の方々からも広く活用されている。

ARTIST #02

藍染 しんご

Shingo AIZOME

1986年生まれ 岐阜県出身。立命館アジア太平洋大学卒 幼少期から日本史教師の父の史跡巡りに随行。2006年 海外への憧れからアメリカ・ロサンゼルスに留学後、日本文化の魅力に改めて気づき帰国。植木職人、バーテンダーなど様々な職を経て、藍染職人に弟子入り。2017年 約6年の修行を経て独立。



作品展のほか、萩市藍玉座跡での藍染についての調査を萩市まちじゅう博物館と行った。

熊谷家住宅

熊谷家は藩政初期ごろから、萩城下に移り住み、問屋と金融・仲買、製塩を業とし、萩藩御用達として栄えた豪商。当家初代熊谷五右衛門が明和5年(1768)50歳の時に新築した主屋をはじめ、離れ座敷、本蔵、宝蔵の4棟が国の重要文化財に指定されている。また江戸時代より作家を滞在させた際の作品等が残っており、当時からアーティスト他多くの客人が滞在したレジデンスの歴史がある。

ARTIST #03

山本 浩二

Koji YAMAMOTO

1951年生まれ。73-76年スペイン留学。87年ワルシャワに招待され制作、個展。95独文化庁後援個展。2004年ミラノで出版記念展。09年と16年にミラノ LorenzelliArteで大規模個展。11年神戸・凱風館に「老松」制作。14年金沢能楽美術館個展。15年東京とミラノで画集出版。2022-23年サウジアラビアTADAWULで「黒松」6×20mが展示され、永井画廊 東京、アロンザカイム ロンドン、熊谷美術館 萩、他で展覧会が開催されている。



「熊谷家住宅」 Photo by 海野悠

襖絵作品を初め数展の絵画作品を限定公開し、大広間の空間を鮮やかな彩で演出。

青木周弼旧宅 主屋床の間

3代藩主・毛利敬親の侍医を務めた青木周弼の旧宅。幕末当時、日本屈指の蘭学医でもありました。来客用と家人用の座敷に分けられた母屋が、全国から門下生が集まった青木家の事情を物語っています。

ARTIST #04

峰松 宏徳 (レジデンス作家)

Hironori MINEMATSU

1982年生まれ。2004年に多摩美術大学油画専攻を卒業、イギリス SIAD デザイン科修了、2006年ドイツ・ベルリンを拠点に11年間活動、2018年福岡に居住地を移し、美術館、歴史資料館、ギャラリーで勤務後、現在は、通信制高校の美術教師をしている。われたメガネ峰太郎、ばかおばけなどの名義でも活動している。



平面作品、立体作品などプロモデルなどを独自の世界観で再構築した作品を展示。

伊藤博文別邸

別邸は、伊藤博文が明治40年(1907)に東京府下荏原郡大井村(現:東京都品川区)に建てたもので、車寄せを持つ玄関の奥に、中庭をはさんで向って右に西洋館、左に書院を配し、さらにその奥に離れ座敷、台所、風呂及び蔵を備えた広大なものでした。萩市へは往時の面影をよく残す一部の玄関、大広間、離れ座敷の3棟を移築しています。

ARTIST #05

丸山 武

Takeshi MARUYAMA

金川大学文学部を卒業後、原稿編集者として9年間働いた後、29歳の時に陶芸に出会い、以来萩に移住し、萩焼に従事する。またファウンデーション大学(フィリピン)にて教鞭をとり、海外での長期滞在制作活動を行った。作品の多くは、時間による物理的な劣化と、その対極にある再生という概念に魅了されていることを反映している。

西日本陶芸展奨励賞受賞、金沢工芸大賞コンペティション入選、国際陶磁器展美濃入選、萩市文化功労賞を受賞。



伊藤博文別邸の床の間にこれまでの大型作品を展示し、期間中 1,600人以上が会場に訪れた。

旧田中別邸 五松閣

明治期には、夏みかん栽培を奨励した小幡高政がここに居住し、建物の主要骨格が形成されました。大正期に田中義一の所有となりました。五松閣から「かんきつ公園」や河畔の景色が楽しめます。

ARTIST #06

坂本兄弟

SAKAMOTO Brothers

2021年11月3日「文化の日」に文化財施設「旧田中別邸」で行った 公開制作のアーカイブです。Yutaka Sakamoto氏の手がけるSVNS（シンセティック・バーチャル・ネイチャー・サウンドスケープ、擬似自然音）と Makoto Sakamotoの非現実的でシネマティックなサウンドが混ざり合い、当日の天候、空気、環境の全てを取り込みながら制作されました。


 「公開制作」

Makoto SAKAMOTO × Yutaka SAKAMOTO
アーカイブ映像

旧山村家住宅 モニタールーム

この地方には珍しい「表屋造り」という建築方法を用いた美しい白壁の建物。施設内では、山村家をはじめ、浜崎の旧家に伝わる品々や浜崎に関する資料を展示しており、旧正月には、提灯やお雛様が並ぶ、江戸時代後期に建てられた大型の町家で浜崎伝建地区の伝統的建造物(文化財)として特定されています。

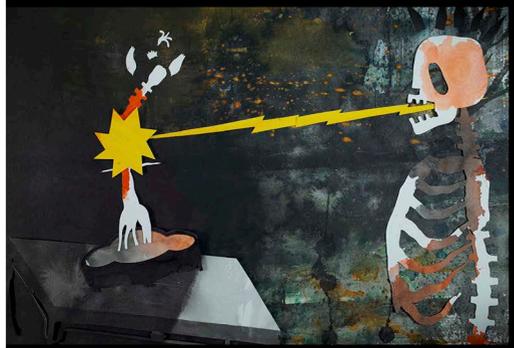
ARTIST #07

潘 正強

Zheng qiang PAN

1989年生まれ、中国 江蘇省出身のコラージュアーティスト、アニメーター、伝統的な中国切り絵とコラージュを融合させた作品や動画を制作。

この作品「出売」(Out of the shell)の制作には直感で切り絵を制作しその過程で起こる展開や変化を撮影しました。最終的に合計2,000枚以上の写真を動画編集した。



剪纸定格动画短片《出売》截图



切り絵素材は、「動く」という性質を持っている為、アニメーションにすることで更にストーリーが生まれるという。

旧湯川家屋敷 日本庭園

藍場川沿いにある藩政時代の武家屋敷。川沿いに長屋門があり、屋敷の中には橋を渡って入ります。川の水を屋敷内に引き入れて流水式の池泉庭園を造り、池から出た水を家の中に作られたハトバや風呂場で家庭用水として使った後、再び川に戻しています。環境問題に配慮した水の利用法を見ることができ、特に茶室回りの意匠なども優れています。

ARTIST #08

豊田 剛士

Tsuyoshi TOYOTA

1980年生まれ、Multiple 名義でサウンドデザインやインスタレーションなど、自然音や環境音をもとにした作品制作を行う。波や川、野鳥、虫の音、街の雑踏、喧騒といった日常に溢れる音を収集し、地域性で異なる音の変化を日本独自のアンビエントとして楽しむ精神性を電子機器と融合させ表現している。またパーカッショニストとして民族打楽器でバンドライブのセッションやワークショップなどを開催している。



旧湯川家屋敷の庭園で制作音源を流すことで環境音を取り込んだ自然のオーケストラを楽しむことができた。

渡辺蒿蔵旧宅 土蔵ギャラリー

明治維新後の日本の造船業を牽引した実業家・渡辺蒿蔵が地元・萩に明治時代に建立した邸宅。数寄屋風の意匠が見られ、三畳台目の茶室や座敷から眺める露地風の枯山水庭園があります。併設される土蔵ギャラリーではモノトーンを基調とした作品を展示しました。

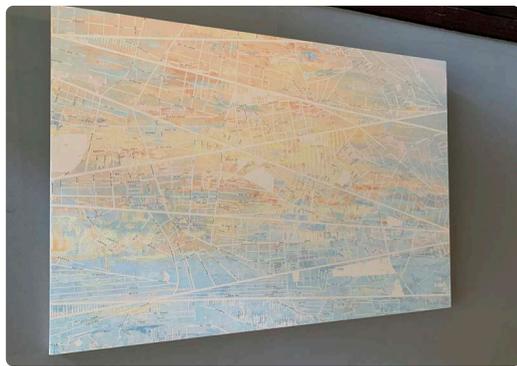
ARTIST #09

沼田 愛実

Manami NUMATA

1993年生まれ、2019年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻・油画 修了、フィレンツェに3カ月の留学。地図や静物をモチーフに、人生をひとつの旅路と捉え、物語性のある絵画制作を行っている。

シリーズ作品「KESHIKI」は、陶磁器の分野における修復技法からインスピレーションを得ており、絵の中に様々な言語で「乾杯」が描かれている。また舩子176での展示では、今回のビジュアルイメージとなった油絵作品「Contrail#6」などシリーズ作品を数点展示した。



飛行機雲と夜をコンセプトとした、油絵具によるシリーズ作品の展示。作品からも繊細さが伝わる。

舸子176

浜崎伝建地区に残る築200年の元海産物問屋「旧藤井家住宅」を改築し、レストランなどの事業を手がける「b.note」が運営。器などを展示販売するアートギャラリー「舸子の蔵」を併設しています。

ARTIST #10

原田 とおる

Toru HARADA

1980年生まれ。九州産業大学で彫刻を学んだ後、中国 上海にて都市設計～彫刻家アシスタントの経験を経て独立。

海外生活の中で多様文化や民族との出会い、地域体験をプロセスとして作品を制作。2021年より萩市文化財施設や空き家などの空間を活用したアートプロジェクトを開催するなど、生活 / 制作環境の変化で生まれる可能性、意識をテーマに様々なフォームで表現する。



Photo by Gabriel.



舸子176では、作家 沼田愛実との2人展「交差点」として、普段とは違う店内の雰囲気を出した。

大屋窯 濱中宅

日本のみならずアメリカやヨーロッパなど海外でも個展を開く陶芸作家・濱中月村氏創立。萩土と天然の釉薬を使い、茶陶から日々の器までシンプルであたたかみのある作品を制作しつづけています。緑に囲まれたギャラリー兼母屋にて、作品を展示・販売しています。

ARTIST #11

濱中 月村

Gesson HAMANAKA

1969年に大屋窯を開く。茶陶を軸に様々な創作作品を国内外の個展で発表。萩にとどまらず、信楽、織部、志野、磁器など幅広い作品を制作。1994年には「矢印～80億の道標(ミチシルベ)～」シリーズの作陶を開始。濱中月村を代表する作品群となっています。



「矢印-80億の道標(ミチシルベ)-」は、これから人類の向かう方向を指しているようにも見える。

CASA

文化財指定を受けた古民家で、サステナビリティやアートにかかわる作品や活動を期間限定で紹介するアクティビティスペース。メインコンセプトは「ゆらぎ」。

ARTIST #12

アレックスサンドロ・ヌティーニ (レジデンス作家、イタリア)

Alessandro NUTINI

1958年7月29日、イタリア、フィレンツェ生まれ。1975年から数年フィレンツェの画家工房に弟子入りしフィレンツェ15世紀絵画の伝統技術を学ぶ。1985年以降、画家として独立。トスカーナ地方に根ざすエトルリア文化に深く傾倒し、表現の源となる。ニューヨークに短期間滞在。その後カリブ諸国を旅し、土着の色彩豊かな絵画に魅了され技術を学ぶ。1992年、フィレンツェ、アカデミア美術学院にて裸体デッサン科目を取得。1995年以来、毎年日本を訪れる機会を得る。その文化、芸術に深く衝撃を受け、自身の創作言語にも強い変化が現れる。



CASAにて作家の滞在制作～作品展「C'era una volta」(昔々...)を開催し、街ゆく人との交流が生まれた。

Gallery Jibita

萩焼の産地、山口県萩市で萩焼を始めとして、全国の陶芸やガラス、木工の作品から器などの工芸を販売しているアートのギャラリーです。

ARTIST #13

岩崎 龍二

Ryuji IWASAKI

1980年、大阪府生まれ。
大阪美術専門学校卒業。
2012年、大阪府富田
林市に工房を構える。
日本伝統工芸近畿展第
47回新人奨励賞など受賞。



ARTIST #14

七尾 うた子

Utako NANAŌ

大阪生まれの陶芸家。
丹波焼・石田陶春氏に
師事。北海道に移築の
のち、2015年に長浜に
移築。



独特な色彩に吸い込まれそうな魅力を感じる岩崎の器。

古い映画などに影響を受けて作陶している七尾の作品。

俣宿 天十平

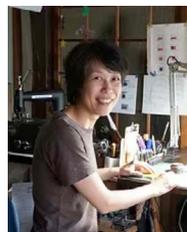
萩城下町の一角にある、江戸時代の旧家をそのまま使ったギャラリー&カフェ。江戸時代の和室と大正時代の洋館で、一年を通して個性豊かな作品を扱っています。

ARTIST #15

坂田 典子

Noriko SAKATA

京都の南の端っこにある南山城村の小さな工房でコツコツと革のものを作っています。命から頂いた大切な素材を使わせてもらっていること手間と時間をかけて鞣し染めていただいていること、そして、使っていただける方がいることに感謝しています。



ワークショップでは、参加者と一緒に皮の小物作りを楽しんだ。

古民家ゲストハウス萩暁家

浜崎伝建地区に位置するゲストハウス。旅行者と地元の人との交流が生まれる場所です。萩の魅力と季節の変化を楽しみながらゆるりと滞在できます。

ARTIST #16

三田 隆二

Ryuji SANTA

1988年生まれ 岐阜県郡上市出身。2019年に萩に移住、ゲストハウスの経営を始める8年前に糸かけ曼荼羅に出会い、幾何学的な模様に着かれて、空いている時間にコツコツと制作を始める。



糸かけ曼荼羅は、素数を元に糸を順番にかけていくと美しい幾何学模様ができる。

tazz

店主が線描画家として活動する中、県内若手作家、そして、彼らの作品を発信できるお店を観光地で作りたくと、2006年にオープンしました。

ARTIST #17

田村 覚志

Satoshi TAMURA

幼少期、書道を嗜んでいた祖母と筆を使い絵を描いて過ごし、22歳頃より本格的に絵の道を志す。2004年に初展示会を皮切りに、様々な場所で展示会を開催。



「-筆ペンで描く-線描画」展 繊細な線で描かれた作品は、動物や植物をモチーフに見るものを魅了する。

萩焼窯元 牧野窯

萩市三見市(さんみいち)という場所でやきもの作りをしている萩焼窯元 牧野窯。陶工の牧野将典は20年前に萩焼に出会い、東京から萩に移住。以来、伝統的な製法を大切に作品は蹴りロクロで成形、釉薬は灰から手作り、薪を使った登り窯での焼成。自ら掘った土も一部使用しています。

ARTIST #18

牧野 将典

Masanori MAKINO

萩焼作家。牧野窯代表。1972年、長野県小諸市出身。1995年、東京にてテレビ関連企業に就職。2000年、「萩焼をやろう!」と決意し萩に移住、十二世 坂高麗左衛門に師事する。2004年から萩焼窯元「泉流山」で職人として勤務。2011年から萩焼作家としての活動を始める。2018年に独立し、萩市三见到り窯を築窯。2020年、2022-23年、田部美術館『茶の湯の造形展』入選。2023年、『第15回現代茶陶展』入選。フランス・パリで開催された展覧会『1000 Vases』に出品。2021年、経済産業大臣指定伝統的工芸品「萩焼」伝統工芸士に認定される。



イベント「萩焼と7人の詩人」では、桑原滝弥さんをはじめ山口在住の7人の詩人によるパフォーマンスが行われた。

ハッコニブンノイチ

店舗は元々お祖父様が営まれていた画材屋さんをバー、絵画教室、ギャラリーを併設したお店にしています。店内は、さまざまな作品に溢れアートな雰囲気がいっぱいです。

ARTIST #19

國本ゆうじ

Yuji KUMIMOTO

セツ・モード出身絵師・造形師。以後フリーランスのイラストレーター
2001.open food&art [hakko2bunno1]東京にて映画看板工房、CG制作会社
を経てイスラエル遊学。



絵や手作りの作品で埋め尽くされて、遊び心満載の博物館のような店内で小さな作品をゲット。

中原木材

かまぼこ板の製材業として創業。戦後の経済成長を経て、現在は、家具職人・中原 忠弦(チュウゲン)さんが廃材を利用して空間を作り上げた。まるで映画のセットのようなアトリエ(ショールーム)は、様々な道具や制作した家具が展示されています。独自のscrap & buildの世界観で廃材と用途、美を見出し再生させています。

ARTIST #20

マックス (レジデンス作家)

MAX (Max Trevor Thomas Edmond)

ニュージーランド出身で芸術一家に生まれる。作家、詩人としての活動から陶芸や木工まで哲学や 氣功を用いた独自の思想で幅広く創作活動中。現在は菊池市在住で古民家再生を始め、菊池大学という新しい学習プロジェクトを始動。



即興的アイデアでここに大きな窓を作ろうというMAX。解体しながら作る。ここから見える景色が作品だという。



呼吸し始めた廃工場で毎日火を焚き作業を進める。



完成した大きな窓により光と風が入り込む。

中原木材 CHAOS

中原木材向かいにある廃工場「CHAOS」は、その名の通りカオスな場所となっており、様々な機会や回収してきたもの等がストックしてあります。かまぼ板の製材業として創業し、戦後の経済成長を牽引してきたこの土地に様々な思いが感じられます。現在は、この場所を再生しながらインスタレーションなどを行っており、表現活動、ものづくりを通して交流を生み出しています。

ARTIST #21

エーコレクティブ

A COLLECTIVE

コレクティブとは集団の意でその語源は、その集団形成が流動的であることが含意されており、国、文化を超えて広範な人々との共通意識や協働作業、刺激を受けながら様々なプロジェクト作品を生み出している。今回のCHAOSでのアーティストコレクティブのインスタレーションは、工場の改装～掃除、レイアウト、またクロージングイベント「close and open」では、音楽演奏、フランスから暗黒舞踏の旅行者による演出など、全てが偶発的に起こり、そこで起きる化学反応やプロセスそのものをプロジェクト作品となった。



ゲリラ的に行われる舞踏による演出。



Diy installation week、様々な人が作業を制作を手伝った。



ここでは、場所、時間、天候全てが一体となる。



イベント「close and open」では、様々な表現を発表した。

中原木材 CHAOS

ARTIST #22

イムワン (レジデンス作家、日本)

IMONE

旅をしながら絵を描いたりしています。



塗装会社から一部ペンキを提供してもらい、中原木材の所有するコンテナに壁画制作を行った。

福の源

ARTIST #23

ソース (レジデンス作家、中国)

Soos

中国浙江省台州市温嶺生まれ。ストリートダンスB-BOYからライターグラフィティへ。1999年よりグラフィティを始め、現在に至る。1999年HIPHOPに触れる。2017年グラフィティテーマパークBDMGを北京で主催している。



中国北京出身の作家SOOSは、中華料理店の所有するコンテナに壁画制作を行った。



